

平成21年7月24日

高松市長 大西秀人様

高松市塩江地区地域審議会  
会長 黒川 恵



建設計画に係る平成22年度から24年度までの実施事業に関する  
意見の取りまとめについて（答申）

盛夏の候 貴職におかれましては、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

また、日ごろは、本地域審議会の運営等に格段の御理解と御協力を賜り暑くお礼申し上げます。

さて、平成21年5月15日付高地政第73号で依頼があり、平成21年度第1回高松市塩江地区地域審議会で説明のありましたこのことについて、本地域審議会としての意見を取りまとめましたので、別紙のとおりお答えします。

なお、山間過疎地である塩江地区の地域特性を十分に考慮していただき、画一的な行政に止まることなく、各種施策、事業に反映していただきますようお願い申し上げます。

#### 記

- 1 建設計画に係る平成22年度から24年度までの実施事業に関する意見について

建設計画に係る平成22年度から24年度までの実施事業に関する意見について

地区名：塩江地区

番号	項目	意見の内容
1	高松新病院附属医療施設（塩江病院）の施設整備	<p>高松新病院の基本構想では、平成23年度末までに介護療養病床を廃止するという国の方針を踏襲した県地域ケア体制整備構想試案が示され、それに呼応する形で、塩江病院の病床数は87床から60床に大幅に削減されています。</p> <p>今年度末までに策定されることになっている新病院の基本計画の中で、病床数がこのまま確定すれば、転換先となる老健や特養などの施設整備が十分でない塩江地区住民にとっては、大きな不安を抱えることとなります。市としては、国や県の動向を見ながら対応したいとの考えですが、時間的な制約もあります。高齢化率40パーセントに迫る地域の特殊性も考慮したうえで、介護病床数の削減を最小限に止めるよう国や県に対して働きかけを強めるとともに、独自の受け皿整備を早急に要望します。</p> <p>また、基本構想の中で、塩江病院の建設場所については、市有地のほか民有地も含め検討したいとされており、基本構想の中で提示された市有地は、いずれも手狭です。全床を療養病床とするのなら、ゆったり長期療養ができる十分なスペースが必要です。地域の医療を支える唯一の拠点病院としての重要性を御理解をいただき、市有地に固執せず環境に恵まれ、諸条件を満たした地域住民が切望する民有地の採択を要望します。</p>
2	市民の森づくり事業	<p>橘谷・黒石地区には、環境を考え勉強できる「エコホテル」があり、児童生徒を対象とした体験教室も開催されており、この施設に隣接した市有林の整備は、自然学習や環境教育を实践する場としての拠点施設整備の面からも有効な施策であると考えます。</p> <p>この市有林の有効活用については、旧町時代から検討が行われており、平成19年度に市民の森づくり事業として整備の要望も行いました。その対応については、黒石地区の一部をフォレストマッチング協働の森事業として3年程度で整備を進めるという限定的なものであり、事業終了後、そのまま放置すれば荒廃が進み、折角の活動も徒労に終わりがねません。今後、この整備地の管理を含む市有林の有効活用を図ることが必要と思われれます。</p> <p>このことから、里山に親しみ散策ができる遊歩道整備、計画的な植栽や除伐による自然公園整備、子どもたちが自然と触れ合える体験施設の整備等、名実ともに市民の森として活用できるよう当該市有林の整備を要望します。</p>
3	コミュニティセンターの施設整備	<p>旧町時代には塩江地区に公民館がなく、住民の優れて待望する施設でした。合併を機に整備されることを望んでいましたが、現実には旧庁舎の一部を活用して公民館に充てるという期待はずれのものでした。</p> <p>塩江地区のコミュニティセンターは、平成21年度事業として、公民館として利用されていた部分を中心に約2,300万円の予算で改修されることになっています。コミュニティセンターは、地域住民のまちづくり活動や生涯学習の拠点として重要な役割を担う施設です。</p> <p>下笠居や三谷地区など他の市域では、新しくコミュニティセンターが建設また計画されています。塩江地区には当初から公民館としての機能を有する設備がなく、施設整備が優先されてしかるべきでないかと考えます。旧庁舎の一部改造では、他の地区に大きく見劣りするものといわざるを得ません。地域のまちづくり拠点として、名実ともに住民の誇れる施設整備を要望します。</p>



建設計画に係る平成22年度から24年度までの実施事業に関する意見について

地区名：塩江地区

番号	項目	意見の内容
4	たかまつマイロード事業	<p>旧塩江町時代には、町道の草刈等の清掃活動は、町民が道路愛護会を結成して定期的実施されてきました。今年度からは経過措置が終了し、市の制度であるマイロード事業に組み入れられました。「自分たちの道路は自分たちで守る」という市民の「自助」の精神を喚起する点では評価できる事業だと思います。しかし、放置すればすぐに沿道には雑草が生え、樹木に行く手を遮られるような、条件の悪い塩江地区における清掃活動には、大変な労力と時間が必要であることも理解をお願いします。</p> <p>市道の管理は、一義的には市に管理責任があると思われませんが、高齢化の進んでいる当地区では、ボランティア頼りではおのずから限界があります。地区によっては限界集落に近いところもあり、清掃用具を使うマンパワーが圧倒的に不足しております。市街地を対象とした制度をそのまま山間地域に適用するには無理があるといわざるを得ません。</p> <p>市道の維持管理はボランティア任せでなく、「助っ人」としてシルバー人材の導入も考えられます。シルバー人材を雇い入れることによって、新たな雇用も発生し、地域の活性化にもつながるのではないかと考えます。今後、高齢化が更に進み、画一的なマイロード事業では対応が困難になると予想されることから、地域の特性に合わせた施策を要望します。</p>
5	温泉施設の整備	<p>塩江温泉は、今から約1,300年前に名僧行基により発見された歴史ある温泉として知られています。また、泉質と自然環境にも恵まれ、全国でも数少ない国民保養温泉地に指定されています。塩江温泉のそれぞれの源泉は、優良な泉質であり高い評価がありますが、近隣地においても新たな温泉が次々と掘削され、塩江地区の入込み観光客数にも影響を及ぼしています。</p> <p>これからの塩江地区の観光振興に一番求められるものは、40度以上の源泉の発掘であると考えられます。適切な場所で市有泉を掘削し、温泉水の安定供給を図ることを要望します。</p>
6	コミュニティビジネス等の振興	<p>塩江地区の観光振興と地域コミュニティの構築には、地域の特色を生かし、地区住民が「住んで良かった」、来訪者が「来て良かった」と思うまちづくりを進めることが共通の課題であり、必要とされています。そのためには、地区住民一人一人が地域の豊かな自然や歴史、伝統文化などを誇りに持ち、大切に活用していくことが重要であり、また、行政の側面からの援助も必要なものと考えます。</p> <p>そこで、塩江温泉観光協会を中心に進める「循環型観光振興事業」と塩江地区コミュニティ協議会が取り組む「ゆめづくり提案事業」の連携と活動を行政として積極的に支援し、観光・交流に係わるコミュニティビジネス等の振興促進に努められることを要望します。</p>
7	観光ネットワークの構築	<p>これからの観光振興は、高松市単独ではなく、香川県、中四国、近畿圏とも広域的連携を図りながら進めることが必要と考えます。</p> <p>このことから、(財)高松観光コンベンション・ビューローや(財)香川県観光協会等との更なる連携強化を図り、様々な機会や媒体を活用し、塩江地区の情報発信やPR活動を推進するよう要望します。</p>
8	観光イベントの充実	<p>塩江地区では、「桜まつり」「ホテルまつり」「温泉まつり」「もみじまつり」といずれも歴史あるまつりを開催してきていますが、時代の変化とともに観光形態も変化をきており、イベント内容の充実と強化が必要に迫られています。</p> <p>そこで、観光イベントの充実を図るため、行政のより一層の財政面も含めた支援と連携強化を要望します。</p>